



2008. 5. 31

マーク制作: 関知磨子(秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

(融合研のホームページ) <http://www.yu-go.info/>

(事務局) 〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4 (TEL&FAX) 043-463-1929

本号の内容

○巻頭言: 宮崎稔会長 「融合研の解散論議に思う」

- 1 第12回融合フォーラム in 松山案
- 2 第13回融合フォーラム in 厚木(仮称)情報
- 3 役員会報告
 - セキュリティ委員会報告
 - プライバシーポリシーについて
 - 10周年記念事業が終了しました
- 4 通信による総会
- 5 事務連絡
 - 会員継続の確認
 - 10周年記念誌の送付と入金について
 - 2010年度以降のフォーラム開催の立候補を受け付けます。
 - 2009～2010年度の役員の立候補を受け付けます。

巻頭言

融合研の解散論議に思う

融合研会長 宮崎稔

融合研の会則には、解散条項があるのをご存じですか? 「第8章第23条 本会は、・・・その存在の意義を認めないと判断したときは、総会において会員の総意をもって解散することができる。」というものです。世の中には、いろいろな会があります。その多くは、設立の時には必死になって目的や活動方針等を考えますが、その目的が達成されたり必要が無くなったりしても、会の存続のために汲々となってしまうということが数多くあります。しかし融合研は、発会の時から「そうになったらキッパリと解散できるようにしよう。」と取り決めて発足したのです。このことは、「幽霊会員を作らない。そのためには、会員登録を継続するかどうかを毎年意思表示していただく。」ということと相まって、会の運営に緊張感をもって取り組むということにもつながってきました。

さて、10周年記念事業を進めてきた今、一部にこの解散について考える声も出てきています。みなさんは、どのようにお考えですか?

「もう、解散してもいい!」

「いや、まだ続けるべきだ！」

いずれでしょうか？

その判断の基準は、「会の目的が達成できたか」ということと「存在する意義が無くなったか」「融合研以上に会の目的を達成している組織があるか」という3点です。その声が大きければ会員の総意で結論を出すこともできます。

私も、解散についての話題が出るに付け、「今は、どうだろうなあ。」と、正直なところ揺れました。そうして、改めて会則を開くのです。第1章総則第3条には、「この会は、学校と地域が連携・融合しあって行う教育・学習の理論と実践について研究し、学校や社会で行われる教育・学習の充実を踏まえた生涯学習の進展と、学校を活かしたコミュニティの発展に資することを目的とする。」とあります。これを読むたびに、「まだまだだ！！」と感じ、揺れていた心が収まります。

会の活動には、勢いのある時もあればマンネリ化するということもあります。その繰り返しは付きものです。でも、今はまだ目的が達成し切れていないと思えないこと、またこの会の存在を必要としている人がいると考えられること等を勘案して、会長からの「解散発議」は、とりあえずしないつもりです。でもこういう緊張感をもって、これからも会運営に努力していきたいと思えます。

融合研において解散論議は決してタブーではありません。ビクビクするものでもありません。会員の皆様も、時にはこういう視点をもって活動に関わっていただけると、よりホンモノで中身のある会になると思いますので、これからのご意見をよろしくお願いします。

1 第12回融合フォーラム in 松山 (案)

以下のように、12回融合フォーラムin松山の開催要項が決定しました。観光シーズンですので、飛行機等の予約をお早めに。また、ホテルは分散することになります。申し込み順で決定させて頂くことになると思いますので早めをお願いします。

※申し込みは、6月中旬から開始します。できるだけ以下のホームページからお願いします。受付と同時に「参加票」をお送りします。

※FAXでも受け付けます。043-463-1929 宮崎稔

第12回融合フォーラム in 松山 開催要項 (案)

(兼) 平成20年度 松山市PTA研究大会 開催要項 (案)

1. 開催の趣旨

学校と地域の融合教育研究会(以下、融合研)と、松山市小中学校PTA連合会(以下、連合会)は、平成13年度から、「子ども達のすこやかな育ち」を保障するための「学」と「社」の融合について、一貫して共同で研究・実践をしてまいりました。これまでにない考え方である「学社融合」について、保護者の立場からの問題意識で、PTAが主体になって取り組むという連合会の活動例は、我が国では数少ないことであり、融合研にとっても心強いパートナーでありました。この度念願が叶って、両者が共同主催で「第12回融合フォーラム」を開催するに至ったのは、このような必然の経過があったのです。

このフォーラムを、連合会は次のように位置づけています。

平成12年度、荒れる学校・不登校児童生徒の急増が社会問題化する中、連合会は、子どもたちの現状とPTAのあり方について研究をいたしました。子どもたちの現状を体力・(忍)耐力・(連)帯力が不足していると分析し、その原因のひとつを地域社会での大人の規範意識や連帯意識の低下・地域コミュニティの希薄化としています。

平成13年度、学社融合の先進的実践がなされている秋津小学校(千葉県習志野市)や富士宮市を視察し、子どもたちの諸問題の解決には「学社融合」の考え方が有効だと確信しました。

「学社融合」を子育て共同体づくりの理念として位置づけ、連合会の取り組みがはじまりました。

取り組みから、7年が経過しました。いま、松山では、PTAはもちろんですが、生涯学習の中にも「学社融合」の考え方が浸透し、地域の実情に合った形で進化を続けています。

学社融合は、今や教育の課題解決に留まらず、まちづくりや人の生き甲斐等と併せて論じられるようになってきました。子どものしあわせを中核にした松P連の活動は、このフォーラムを通して、さらに広がり深まりがもたらされることでしょう。また、融合研にとっても、研究・実践活動のさらなる発展につながるものと期待して、「かかわり合い、支え合う」をテーマに、参加者が実践から学び、振り返り、つながり合って、これからさらに楽しい活動の場となるようお願い、本フォーラムを開催いたします。

2. 主催 学校と地域の融合教育研究会 松山市小中学校PTA連合会
3. 共催 松山市 松山市教育委員会
4. 後援 愛媛県教育委員会（その他申請中）
5. 日時 平成20年8月2日（土）13:30～8月3日（日）12:00
6. 会場 エスポワール愛媛文教会館
7. テーマ 「かかわり合い、支え合う」
8. 日程

8月2日

13:30 13:50 14:10 14:30 14:40 17:30 18:0 19:00 21:00

JOY POPダンス （ダウン症協会愛媛支部 オープニングセレモニー）	松山市PTA連合会 会長 中村 和憲	基調提案 「融合でイキイキ私の人生」 融合研副会長 岸裕司氏	休憩	分科会 （6分科会×各3つの提案を30分ずつ。30分ごとに移動が可能）						休憩	融合屋台 フォーラム （藤・椿）	交流会 オーケストラ 次年度開催地紹介・参加者紹介等
				(1)	休憩・移動	(2)	休憩・移動	(3)	休憩・移動			
			14:30	15:10 15:20 15:50 16:00 16:30 16:40								

8月3日

8:30 9:00 11:45 12:00

融合研 総会（会員のみ）	パネル ディスカッション	エンディング セレモニー
	※前日の6分科会のコーディネーター＋実行委員長。コーディネーター；矢吹正徳（融合研会員）	閉会行事 次年度開催地挨拶

※分科会提案者等の詳細は、以下です。

第1分科会；

- テーマ；学社融合で問題に強い学校づくり
- コーディネータ；国立大学法人愛媛大学教育学部准教授 白松 賢
- 発表者；①仙台市立名坂小学校教諭 野澤 桂子「いっしょに笑えば応援団」
②松山市立椿小学校校長 片上 公典「学社融合による開かれた学校づくり」
③融合研会長 宮崎 稔「モンスターのその後、さらにその後」

第2分科会；

- テーマ；学社融合で、元気なまち育て
- コーディネータ；融合研副会長 静岡県芝川中学校長 渡辺 喜久
- 発表者；①新居浜市教育委員会社会教育課副課長 関 福生「私と学社融合」
②NPO法人教育支援協会神奈川支部地域教育担当 田中 靖子
「地域再生のころみ『だがしや学校』を通じて」
③松山市教育委員会地域学習振興課課長 竹村 奉文
「地域を元気にする公民館元気倍増計画」

第3分科会；

- テーマ；地域の子どもは、地域で守る！
- コーディネータ；松山市教育支援センター前統括相談官 宮内 正民
- 発表者；①松山市小中学校PTA連合会前事務局長 西川 暁「MACネットシステム」
②松山市立道後小学校生徒指導主事(安全教育担当) 藤本 和人
「地域と共に守る、学校の安全」
③日本市民安全学会会長(厚木市セーフコミュニティ専門委員) 石附 弘
「今、子どもが危ないー危機の構造と処方箋」

第4分科会；

- テーマ；松山に住んでいると健康になる！
- コーディネータ；愛媛大学医学部付属病院 医療福祉センター 櫃本 真聿
- 発表者；①融合研東北北海道支部事務局長・紫波町役場産業部農林課食育主幹 藤尾智子
「地域力が生きる食育」
②松山市立双葉小学校副会長 松本 真弓 家庭教育部長 鴨頭 裕子
「双葉みそ『親子でみそ作り』PTA家庭教育講座より」
③あい幼稚園(松山市)園長 西宮 京子
「五感で味わおう！幼稚園で365日の食育体験」

第5分科会；

- テーマ；学社融合で楽しくなる学校
- コーディネータ；融合研副会長 岸 裕司
- 発表者；①秋津コミュニティ運営委員 佐竹 正実「秋津の秘密」
②椿小おやじの会 堀内 一甲「おやじの底力」
③融合研神奈川支部長 青木 信二「地域がつながる森の里 PTAの底力」

第6分科会；

- テーマ；地域の風土を作るには
- コーディネータ；融合研副会長(東北支部長) 仙台市教育委員会 野澤 令照
- 発表者；①NPO法人パン工房 麦の穂 中村 知子「地域の中で育つ(作業所の設立～現在)」
②秋津・地域であそぼう！世話役 車 育子「みんなちがってみんないい」
③倫理法人会 「企業の障害者支援」

※今年は、一日目の分科会終了後に、「屋台フォーラム」が復活します。

これは、多くの会員から「テーマには直接関係のない領域もあり、実践提案をして情報交換をしたい。」という声が多数寄せられたことを受けてのものです。資料だけでもけっこうですので、多くの方の参加をお待ち

しています。

○会場等の関係で、発表予定がある人は、「融合研事務局まで」ご一報ください。

※分科会・屋台発表の資料、「競り市」に出す品物がある方は、以下のように受け付けます。

○送り先： 〒790-0864 松山市築山町12-33松山市青少年センター内
松山市小中学校 PTA 联合会事務局

○送付期日 7月30日～31日

○荷物の紛失を防ぐため、かならず「融合フォーラム分科会発表資料」等を、表書きして送付してください。

○発表・配布資料は、A4版が望ましいです。

2 第13回融合フォーラム in 厚木（仮称）情報

既報のように、来年度のフォーラム開催地が神奈川県厚木市に決定しました。概要は以下の通りです。

○期日 9月20日前後の5連休の後半（予定）

○場所 神奈川県厚木市 「日産自動車研究センター」をメイン会場にします

※地域にある最先端の企業施設をお借りして、初めての試みである企業との連携に挑戦します。お楽しみに。

3 役員会報告

○期日 5月18日（日）

○場所 秋津コミュニティ

○議題

- ・松山フォーラムについて
- ・セキュリティ委員会報告
- ・10周年記念事業について

○松山フォーラムについて

上記の通りです。

○セキュリティ委員会報告；現在、意見を集約中です。

存続を意識した”内規”内容に関して過日の千葉研修会後の役員会でほぼ了承されました。しかし同役員会では、これらが整備されると、また新たな指針的書面、いわゆる主催地域の主体性を尊重しつつ、均質でスリムな活動を支援するマニュアルを望む声も出ていました。また、これから考えることになると思います。したがって、詳細につきましてはもうしばらくお待ちください。

○プライバシーポリシーについて

個人情報保護法の成立と共に、組織内のプライバシーに関する取り決めと公開が求められています。そこで、セキュリティ委員会から提案のあった以下の内容について、役員会で了承されました。ご確認ください。

学校と地域の融合教育研究会プライバシーポリシー

学校と地域の融合教育研究会(以下、「融合研」という)は、個人情報保護法順守のため、以下の取り組みを行っています。

1、融合研が収集する個人情報

(入会時・更新時・退会時)

氏名、性別、年齢、電子メールアドレス、自宅住所、自宅電話番号

(全国フォーラム受付時)

氏名、性別、電子メールアドレス、自宅住所、自宅電話番号

2、融合研が収集した個人情報の使用目的は以下の項目に限定します

(入会時・更新時・退会時に収集する個人情報)

融合研発行の各種印刷物の郵送、メーリングリストへの登録、学社融合に関する各種イベントの通知

(全国フォーラム受付時に収集する個人情報)

全国フォーラムに関する各種業務(フォーラムに関する事務局からの連絡、当日の参加者名簿、当日の宿泊者名簿、キャンセル料の請求など)

3、融合研が収集した個人情報は以下の方法で管理します

(入会時・更新時・退会時に収集する個人情報)

鍵のついた保管庫(紙媒体)及びパスワードを設定したパソコン(電子データ)にて保管いたします

退会より2年経過後破棄します

(全国フォーラム受付時に収集する個人情報)

鍵のついた保管庫(紙媒体)及びパスワードを設定したパソコン(電子データ)にて保管いたします

全国フォーラム終了より1年経過後破棄します

4、融合研が収集した個人情報を閲覧もしくはアクセスできる人を以下に限定します

(入会時・更新時・退会時に収集する個人情報)

会長(宮崎稔)、事務局長(宮崎雅子)、Web・広報担当(中村智成)

(全国フォーラム受付時に収集する個人情報)

会長(宮崎稔)、事務局長(宮崎雅子)、Web・広報担当(中村智成)

全国フォーラム実行委員長(住所・電話番号など個人を特定する情報を除く)

5、融合研が収集した個人情報の破棄は以下の方法で行います

(紙媒体) シュレッターで粉碎もしくは溶解

(電子データ) Web サーバ・・・Web 管理者が蓄積データを消去

(パソコン) データを消去の上、ダミーデータを上書き保存し、データのリカバリーを不可能な状態にする

6、融合研が主催する各種フォーラム(ミニフォーラム・融合塾等)で参加者から収集する個人情報につきましては、その都度情報管理責任者を配置し、当プライバシーポリシーと同様に個人情報管理を行います。

○10周年記念事業が終了しました

記念誌の発行・送付をもって委員会を解散しました。

※宮崎稔の私見ですが、編集作業の一端を見せて頂きました。今回の委員は、全員がプロ集団でしたが、プロの手腕と内容へのこだわりの凄さを、またすさまじいまでの殺気さえ感じるほどの意気込みを感じました。冊子を手にして、改めて「なるほど、だからあんな立派なものになったのだ。」と本当に納得が이었습니다。

4 通信による総会

規約に基づく年1回の融合研の総会はフォーラムの際に行っています。しかし、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表示をしていただけるようにということで、通信による返信をもって総会に参加していただくことにさせていただいております。その返信分とフォーラ

ムでの総会出席者を合わせて成立の運びとなります。

会計年度が改正になった関係で（7月から翌年の6月が会計年度です）、7月中旬ごろまでに総会議案が皆様の元に届けられます。

松山フォーラムに参加できない方で、「印刷物会員」は返信用の葉書に、また「メール会員」はホームページから、それぞれ必要事項を記入の上返信ください。ホームページでの投票は後日メーリングリストにてご連絡致します。

5 事務連絡

（1）会員継続の更新について ※手続き完了日；松山大会まで。

融合研は、職場の配置転換等で会員としての活動が難しくなった人や個人的な諸事情で会員の継続が困難になった人を、むりやり会員として引き留めておくということをしな（いわゆる「幽霊会員をつくらぬ」）ということが確認されています。したがって、毎年、「今年も会員の継続をするかどうか」ということの確認を行っています。事務手続きが煩雑になりかもしませんが、「通信による総会」の案内と一緒に返信をつけてありますので、

○メール会員は、ホームページからお返事ください。

○郵送会員は、同封の文書でお返事ください。

※退会する方も、ご一報ください。

※継続する方は、年会費（3,000円）の納入もよろしく御願います。

※すでに、20年度の更新手続きを済まされた方は更新の必要はありません。

（2）10周年記念誌の送付と入金のお願

5月20日に会員の皆様には「10周年記念誌」を送らせていただきました。

今回の「融合研10周年記念誌」は有償（2000円）です。

同封しました説明書と郵便局の払い込み請求書を確認の上、お振り込みをよろしくお願います。

すでにご入金いただいた方々、ありがとうございます。

（3）2010年度以降のフォーラム開催の立候補を受け付けます。

2011年度の融合フォーラムは、神奈川県厚木市に内定しています（総会で正式決定します）。それ以後のフォーラム開催について、支部や近隣の人と相談したりして手を挙げてください。

あるいは、自分ひとりだけでもその意向がある方は、「事務局へとりあえず相談」してみてください。「2012年度以降なら」という地域でも構いません。「今は、まだあまり推進されていないから……」という地域でも結構です。フォーラムを機会に、融合の推進が図られたという地域もごぞいます。どうぞ、奮ってご応募ください。

（4）2009～2010年度の役員の立候補を受け付けます。

一部の役員を除き、多くの役員は、発足以来ほぼ同じメンバーです。会の活性化を図る意味からも新しい血の導入も必要とされています。役員になって融合研を改革したいというご意思のある方は、是非、「事務局まで」意思表示をしてください。お待ちしております。

編集後記（のようなもの）

会報37号をお届けします。設立10周年事業も多大な成果を挙げて、すべて成功裡に終了いたしました。そして、いよいよ8月には松山市での第12回融合フォーラムです。

これまで、松山市PTA連合会を主体として、保護者の立場から様々な融合の試みをしてきた先進地での開催になります。教育改革が行政主導で進む中、それだけに保護者の目線からの地域の実態に根ざした活動の持つ意味は大きく、同時にこれからの融合研の課題も明確になるものと思います。多くの参加で盛り上げていただきたいと思います。（M）